

第 65 回トキシシンポジウム プログラム

(Y : 若手奨励演題、O : シンポジウム指名講演、C : 交流演題、S : 特別講演)

7月11日(水) 第1日

- 12:30～ 開場、受付開始
- 13:20～13:25 開会
実行委員長の挨拶
- 13:25～13:30 事務連絡等

若手奨励演題

セッション1 13:30～14:50 座長：松本拓也（県立広島大学 生命環境学部 水圏生体機能学）

13:30～13:50

- Y-1 記憶喪失性貝毒ドウモイ酸の新規生合成中間体の同定と生合成経路の解明
○前野優香理¹、小瀧裕一²、寺田竜太³、長由扶子¹、此木敬一¹、山下まり¹
¹東北大院農、²福島学院大学、³鹿児島大院連合農

13:50～14:10

- Y-2 アイゴ類とカサゴ類のもつ魚類刺毒の類似点
○桐明 絢、石崎松一郎、長島裕二、塩見一雄
東京海洋大学

14:10～14:30

- Y-3 ヘビ毒 ADAM である VAP1 の新たな標的の探索
○新井悠太¹、塩井成留美²、瀬尾忠彦¹、澤田均¹、荒木聡彦¹
¹名古屋大学理学研究科生命理学専攻、²福岡大学理学部化学科

14:30～14:50

- Y-4 北アフリカ棲息種サソリ *Buthacus leptochelys* の毒液に含まれる新規殺虫性ペプチドの構造決定
○義本裕介¹、Mohammed Abdel-Wahab²、Moustafa Sarhan²、宮下正弘¹、中川好秋¹、
宮川 恒¹
¹京都大学大学院 農学研究科、²Al-Azhar 大学

14:50～15:05 休憩

セッション 2 15:05～16:25 座長：宮下正弘（京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻）

15:05～15:25

- Y-5 ホンハブの新規 SSP：SSP-6 をコードする遺伝子の発見
○稲丸賢人¹、千々岩崇仁¹、竹内亜美¹、前田真理恵¹、柴田弘紀²、服部正策³、
大野素徳¹
¹崇城大・院・工学研究科・応用生命科学専攻・生命環境科学講座、²九大・生体防御医学研究所、³東大・医科研

15:25～15:45

- Y-6 ボルデテラ壊死毒（DNT）の細胞受容体同定
○照屋志帆乃、中村佳司、石垣佳祐、新澤直明、堀口安彦
大阪大学 微生物病研究所 分子細菌学分野

15:45～16:05

- Y-7 E-cadherin 機能阻害活性を維持した最小化ボツリヌス菌ヘマグルチニン由来物質の開発
○阿松 翔、松村拓大、油谷雅広、藤永由佳子
金沢大学医薬保健学域医学系 細菌学

16:05～16:25

- Y-8 Piperine drastically suppress cholera toxin production and virulence expression in *Vibrio cholerae* O1 El Tor variant strain
○Goutham Belagula Manjunath¹, Sharda Prasad Awasthi¹, M. Shamim Hasan Zahid¹,
Hoang Hoai Phuong¹, Masahiro Asakura¹, Noritoshi Hatanaka¹, Emiko Iwaoka², Shunji Aoki², Atsushi Hinenoya¹ and Shinji Yamasaki¹
¹Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka Japan. ²Faculty of Pharmacy, Hyogo University of Health Sciences

16:25～ 事務連絡等、チェックイン、フリータイム

18:30～ 夕食

交流演題

セッション 3 20:00～22:00 座長：松村拓大（金沢大学 医薬保健研究域医学系 細菌学）

各演題持ち時間は 10 分

- C-1 ウエルシュ菌 α 毒素による好中球の産生抑制機構の解明
○竹原正也、小林敬子、永浜政博
徳島文理大学 薬学部 微生物学教室
- C-2 川崎病と細菌毒素の関係
○小田真隆、横谷 篤、林 直樹
京都薬科大学 微生物感染制御学分野

- C-3 蛇毒由来 RGD ペプチドのインテグリン特異性
○大山悦子
明治薬科大学薬学部衛生化学研究室
- C-4 LRP5/6 が関与する細胞間接着の解離
○阿部美咲、荒木聡彦
名古屋大学 理学部 生命理学科 海洋発生生化学グループ
- C-5 ハブ毒液中の細胞外小胞に関する研究
○中村仁美¹、豊田紗矢香¹、細山田翔¹、井上可奈子¹、大栗誉敏¹、黒岩敬太²、
上田直子¹
¹崇城大・薬、²崇城大・工
- C-6 *S. pseudopneumoniae* が保有するコレステロール依存性細胞溶解毒素様分子の解析
○松本愛理、田端厚之、友安俊文、長宗秀明
徳島大学大学院 先端技術科学教育部 物質生命システム工学専攻
- C-7 *Streptococcus mitis* が産生する新規 5 ドメイン型コレステロール依存性細胞毒素の作用特性
○藤本あい、田端厚之、高尾亜由子、大國寿士、友安俊文、前田伸子、長宗秀明
徳島大学大学院 先端技術科学教育部 物質生命システム工学専攻 生命テクノサイエンスコース
- C-8 グループ III に属するコレステロール依存性細胞溶解毒素の受容体認識性の比較
○富永明子、友安俊文、田端厚之、長宗秀明
徳島大学大学院 先端技術科学教育部 物質生命システム工学専攻
- C-9 ヤエヤマサソリ毒液に含まれる抗菌性ペプチドの同定と活性評価
○岡部諒太¹、北中淳史¹、内山博允²、須恵雅之²、宮下正弘¹、中川好秋¹、宮川 恒¹
¹京大院農、²東京農大
- C-10 アリ由来の生理活性ペプチドがイオンチャネルの活性に及ぼす影響について
○稲垣英利
産業技術総合研究所
- C-11 *Aeromonas* 属菌のバイオフィルム形成に影響するヒト培養細胞由来因子の解析
○清家総史¹、小林秀丈¹、高橋栄造²、岡本敬の介²、山中浩泰¹
¹広島国際大学 薬学部 分子微生物科学教室、²岡山大学 インド感染症共同研究センター
- C-12 *Bartonella henselae* 由来新規血管新生因子の単離精製の試み
○塚本健太郎¹、山口央輝²、堀口安彦³、土井洋平¹
¹藤田保衛大・医・微生物、²藤田保衛大・総医研・医高分子、³阪大微研・分子細菌学
- 22:00 第1日目プログラム終了

7月12日(木) 第2日

8:15 開場

シンポジウム指名講演

セッション4 8:45～10:25 座長：柴田弘紀（九州大学 生体防御医学研究所 ゲノミクス分野）

8:45～9:15

O-1 哺乳類由来の神経毒の化学生物学研究

○北 将樹

名大院生命農・JST さきがけ

9:15～9:40

O-2 海洋生物由来新規キヌレニン産生抑制物質の探索

○大野 修、佐々木智未、浅井章良、滝川 修、松野研司

工学院大学先進工学部生命化学科

9:40～10:10

O-3 *Aeromonas* 菌体外プロテアーゼによる細胞間接着因子の分解と上皮バリア破壊機構の解析

○小林秀丈、清家総史、高橋栄造、岡本敬の介、山中浩泰

広島国際大学・薬学部・分子微生物科学教室

10:10～10:25 休憩

セッション5 10:25～11:50 座長：塚本健太郎（藤田保健衛生大学 医学部 微生物学講座）

10:25～10:55

O-4 宿主細胞内へ装填されたピロリ菌がん蛋白質 CagA の安定性を規定する宿主細胞分子とその制御

○津川 仁¹、加藤 智尋²、森 英毅³、斉藤 義正⁴、末松 誠¹、鈴木 秀和²

¹慶應義塾大学・医学部・医化学、²慶應義塾大学・医学部・医学教育統轄センター、

³国立病院機構東京医療センター・消化器科、⁴慶應義塾大学・薬学部・薬物治療学

10:55～11:25

O-5 Subtilase cytotoxin (SubAB) による宿主の自然免疫抑制機構の解析

○津々木博康¹、張 田力¹、八尋錦之助²、小野勝彦¹、伊豫田淳³、勢戸和子⁴、

大西 真³、赤池孝章⁵、野田公俊²、澤 智裕¹

¹熊本大院・医・生命科学・微生物、²千葉大院・医・病原細菌制御学、³国立感染研・細菌第一、⁴大阪府公衛研・細菌、⁵東北大・院医・環境保健医学

11:25～11:50

O-6 Cholix による細胞致死機構における新規結合タンパク質の同定と機能解析
○八尋錦之助、小倉康平、寺崎泰弘、佐藤 守、山崎栄樹
千葉大学医学研究院病原細菌制御学

11:50～ 昼食（運営委員会）、フリータイム（エクスカージョン）

16:00～16:30 総会

特別講演

セッション6 16:30～18:40 座長：藤永由佳子（金沢大学 医薬保健研究域医学系 細菌学）

16:30～17:30

S-1 ジフテリア毒素とジフテリア毒素リセプターを巡る旅
目加田英輔 先生
大阪大学微生物病研究所

17:30～17:40 休憩

17:40～18:40

S-2 細胞外マトリックスの多様性とその生理的意義：マトリクソーム解析から幹細胞培養基
材の開発まで
関口清俊 先生
大阪大学蛋白質研究所

18:40 第2日目プログラム終了

19:00～ 夕食（懇親会）

7月13日（金）第3日

開場 8:30

シンポジウム指名講演

セッション7 9:00～11:15 座長：竹原正也（徳島文理大学 薬学部 微生物学）

9:00～9:30

- O-7 複合筋活動電位を用いたボツリヌス毒素の活性測定法
○鳥居恭司¹、高橋元秀²、小崎俊司³、梶龍兒⁴、銀永明弘⁵
¹東京農業大、²PMDA、³大阪府立大、⁴徳島大、⁵化血研

9:30～10:00

- O-8 変異型 A 型ボツリヌス神経毒素重鎖の機能解析
○幸田知子、小崎俊司、向本雅郁
大阪府立大学・生命環境科学研究科・獣医感染症学教室

10:00～10:15 休憩

10:15～10:45

- O-9 百日咳起因菌が産生する低分子量物質
○渡邊峰雄
北里大学 北里生命科学研究所 医療微生物学研究室

10:45～11:15

- O-10 本邦最初の *Paenibacillus sordellii* による毒素性ショック症例
○菊池 賢、水島 遼、鎌田啓祐、板倉泰朋、井口成一、鶴澤 豊、吉田 敦
東京女子医科大学・感染症科

11:15 第3日目プログラム終了

11:15～ 実行委員長閉会の挨拶
次期実行委員長挨拶
閉会